視聴覚いしかわ

Vol.4

発行／石川県視聴覚教育協議会
編集／石川県立生涯学習センター学習情報グループ
発行人／会長　上田　政憲
平成20年３月14日　発行

金沢市広坂2丁目1-1　石川県広坂庁舎１号館　石川県立生涯学習センター内　TEL 076-223-9574　FAX 076-223-9585

デジタルで変わる視聴覚教育

金沢学院大学 美術文化学部 教授　棒田　邦夫

映画「ターミネーター」でキャメロン監督はロボットを登場させるにあたり、姿、かたちばかりではなく、目に映る視覚映像も＜人間が実際に見る視覚＞と同じように拘ってつくった、といわれています。少なくとも人間の姿をしたロボットとなると骨格があり、目に映る視覚もドットのないスムーズな像として見えなければならない、というポリシーでした。ところが1973年にはじめてコンピュータグラフィックスが用いられたロボット映画「ウエストワールド」では、目に映る視覚はモザイクとなって映っていたのです。さらにロボットには骨格もなく、マスクを開くとトランジスターが埋め込まれていました。さすがにトランジスターではロボットが動くとは考えられませんからキャメロン監督は映画「ターミネーター」では、ロボットのあるべき機能を正しく伝えたいとの思いで映画をつくりあげました。視聴覚教育もこれと同じく、情報や物事に対して正しく伝えたいという思いによって成り立っているように思います。

前置きが長くなりましたが、この正しく伝えたいという思いが視聴覚教育にOHPをもたらし、いまでは液晶プロジェクターとコンピュータを使った方法に変わり、これまで手作業でおこなわれていたことが１台のコンピュータですべての資料がまとめられ、かつ印刷することなく画面に表示できるという便利さと鮮明な画像を見せれるようになりました。また、同時に音も扱うことができるようになったことで、より視聴覚教育の効果を上げたと言えます。

現在では、コンピュータの小型化も進み、インターネットの浸透によって電話が携帯型端末となり、iSightという小型ビデオカメラが登場して顔や資料を遠距離からでも見ることができるようになりました。今後の視聴覚教育も学校という箱もので勉強するのではなく、家に居ながらiSjghtを通して勉強をする時代がやってくるかも知れません。

子どもビデオ創作教室

今年度は「子どもゆめ基金」助成活動として実施

石川県視聴覚教育協議会

視聴覚教育協議会が平成19年７月30日から８月３日の４日間、小学生を対象とした『子どもビデオ創作教室』を石川県立生涯学習センターを会場として実施しました。今年度は協議会が子どもゆめ基金による助成活動として実施しました。

講師およびサポーターには、的場孝芳氏をはじめとする生涯学習センター・ビデオクラブ（SVC）の皆さんの全面的な協力を得ました。

８名の小学生が集まり、２名ずつ４グループに分けて撮影と編集に取り組みました。１日目は尾山神社で撮影を行い、２日目以降は撮影したビデオの編集を行いました。パソコンの操作に慣れている子もいれば、あまり慣れていない子もいましたが、付き添いの保護者やSVCの人たちのアドバイスを得て、映像に様々な効果をつけたり、音声やBGM、字幕の挿入を楽しみながら、一つの映像作品として完成させていきました。

今年度は募集開始時期が遅かったためか参加者が少なかったですが、子どもたちが撮影を交互に行い、また編集でもパソコンに接する機会が多くなるなど、行き届いた指導ができ好評でした。

石川県立生涯学習センター　学習情報グループの事業から

はじめに

生涯学習センターでは各種の生涯学習講座を県民対象に開講しているが、その中の視聴覚教育関係の事業について触れてみたい。

学習相談専門員養成講座

この講座は、市町、学校、公民館等における学習専門員のＩＴ技術の指導力向上と相互の連携を図る目的で、毎年６月に視聴覚教育協議会と共催で実施している。内容は、パワーポイントを使ってのプレゼンテーション能力の向上である。

パワーポイントはプレゼンテーションソフトとしては、最も普及しているソフトであり近年では児童・生徒の中にも研究発表等でこれを利用する機会も多くなってきた。このソフトの基本操作から始め、効果的なプレゼンテーションシートの作成、アニメーションの挿入さらに便利な操作等を、専門のインストラクターから学ぶことができる講座である。一時ほどのように希望者ですぐに定員がいっぱいになるということはないものの、それでも締め切り期日までには定員に達する状態である。

文字の装飾、図の挿入、グラフの作成からショートカットキーを使った効率的なスライダ操作など、活用範囲が広い操作方法を学ぶことができる。受講者は、市町の各種生涯学習施設の一線で活動中の方々で、日々の仕事の中でパワーポイントをプレゼンテーション等で活用することを考えていることもあって、大変みのり多い講座となっている。

視聴覚教育指導者養成研修

この講座も、視聴覚教育協議会との共催事業であり、市町、学校、公民館、保育園等の担当者に加え一般県民を対象に、ビデオ撮影の基礎、パソコンによるノンリニア編集技術を活用して５分程度の短編作品を完成させることをとおして、ビデオ撮影と編集技術を修得するものである。生涯学習センタービデオクラブ（SVC）の的場孝芳氏を講師に、SVCのメンバーの方の支援を受けながら１月末の土曜・日曜の計４日間かけて講座を実施している。

アナログ撮影の時代と異なり、デジタルビデオカメラが普及したことにより、ある程度の能力を備えたパソコンと映像編集ソフトさえあれば、家庭でも気軽にビデオ編集ができるようになった。使用する機材は、家庭用のビデオカメラであるがデジタル方式のものを利用するため、パソコンへの取り込みや編集を通して画質が劣化することはなく、様々な効果やBGM、そしてタイトルを付けることができる。

本年度は、WindowsXPパソコンを借り受けて講座を運用することができ、トラブルも少なく講座を進めることができた。ただ、パソコンについては昨年１月に新しいＯＳであるWindows Vistaが登場したが、今ひとつ映像編集ソフトとの相性の問題があって導入の予定は立っていない。また、従来はビデオカメラはテープを媒体としており、デジタルビデオとなってもDVテープに映像を記録してきたが、ここ数年のうちに記録媒体はDVD、ハードディスク、メモリーカードと広がり、DVテープは逆に少数派となってしまった。さらに、地上デジタル放送の開始とともに、ハイビジョンで鮮明な映像を記録できるものも普及してきた。この様な、最新技術への対応が遅れており、今後の課題となっている。

シネマ・アフタヌーン

当センターでは16ミリフィルムを1,500本余り保有しており、これを県内の施設に貸出を行ってきた。また、当センターでは石川県教育委員会規則に基づき、16ミリ発声映写機操作技術認定講習会を開催し、認定証を発行している。

所蔵フィルムを活用した上映会は、子どもを対象とした夏休みと生涯学習センターフェスタ期間中に開催してきたが、平成18年度からは「シネマ・アフタヌーン」と銘打って所蔵の映画フィルムの中から保存状態が比較的良い名作を選んで、年回７回程度上映会を実施している。同様な催しは能登空港ターミナルビル４階の当センター能登分室でも実施している。これまでの上映は、昭和40年代から昭和末までの作品がほとんどであった。上映会参加者は、平日の日中開催ということもあり中高年層が中心である。今年度は２年目ということもあって、「常連」もでき常時50名を超える参加者が鑑賞した。大画面テレビが普及しつつあるとはいえ、スクリーンに大画面で映し出される懐かしの映像に、参加の皆さんは16ミリ映画に毎回堪能している。

近年は16ミリフィルムの購入は、子ども向けを中心に短編作品に限られている。長編の劇映画の購入は予算上の制約からに現状では困難となってはいるが、今後とも所蔵作品の中の良品を選んで上映会を開催していきたいと思っている。

おわりに

学習情報グループは以上の３講座の他に、平成19年度は所蔵ビデオを活用した県民大学校ビデオ講座やエル・ネット「オープンカレッジ」講座を実施した。後者については、文部科学省が衛星回線を利用して提供する主として大学公開講座であったが、平成20年度からはインターネット講座となるため、受講者を集めて一斉に放送を視聴する形の講座は今年度限りとなる。

県財政が逼迫の折、生涯学習センターに蓄えられた「資産」を活用してこれからも知恵を絞った事業を展開していきたい。

平成19年度石川県視聴覚教育協議会・総会報告

平成19年６月19日(火)、石川県立生涯学習センターにおいて、平成19年度理事会及び総会が行われた。(出席市町15、委任状提出市町４)

総会では、議長に内灘町生涯学習課長補佐　吉野純吾氏を選出し、議案審議を行い、平成18年度事業・決算報告並びに19年度事業・予算について可決承認された。

なお、総会終了後、記念講演として『デジタルで変わる視聴覚教育』と題し、金沢学院大学教授　棒田邦夫氏に御講演いただいた。

平成19年度　役員一覧

会　長	上田　政憲	生涯学習センター館長	理　事		木村　康弘	県教委・生涯学習課
副会長	吉田　洋三	小松市教育長	監　事		村田　　健	金沢市
参　与	旭　　直樹	県教委・生涯学習課長	〃		荒井　雅子	宝達志水町
理　事	河村　　聡	加賀市				
〃	塩梅　勝弘	津幡町	事務局	事務局長	宮﨑　謙治	生学セ・学習情報グループリーダー
〃	土肥冨士夫	七尾市		事務局員	徳野　章人	生学セ・学習情報グループ
〃	岡本伊佐夫	穴水町		〃	前田恵里奈	〃

平成19年度　事業報告

1　情報技術活用研修会

主体名	研　修　会　名	開　催　日	場　　所	参加人数
小 松 市	パソコン活用講座	平成19年８月８日～平成19年９月13日	小松短期大学	376人
中能登町	パソコン教室	平成19年６月19日～平成19年８月７日	ラピア鹿島	79人

2　映像メディア活用講習会

主体名	研　修　会　名	開　催　日	場　　所	参加人数
石　川　県	ビデオ作品制作講座	平成20年１月19日～１月27日	石川県立生涯学習センター	29人

3　視聴覚教育指導者講習会「現代的課題対応講座」

(第１回)「パワーポイントを使ってのプレゼンテーション」(パワーポイント入門)
平成19年６月27日(水)・28日(木)　37名参加　場所：石川県立生涯学習センター

(第２回) 演題：『映像作品と著作権』(いしかわビデオ作品コンクール発表会記念講演)
平成20年３月７日(金)　　場所：石川県立生涯学習センター
講師：北陸大学教授　大楽光江先生

第11回視聴覚教育総合全国大会・第58回放送教育研究会全国大会合同大会(東京大会)に参加して

県立生涯学習センター　担当課長　学習情報グループリーダー　**宮　崎　謙　治**

本大会は、昨年10月26日(金)と27日(土)の２日間にわたり、今回より視聴覚教育総合全国大会と放送教育研究会全国大会の合同大会となって、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、『ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」を大会主題として開催されました。今日のネットワーク社会におけるメディアの進展は社会に大きな変革をもたらしましたが、それは私たちに新しい課題の解決と問題への対応を求めていることを踏まえ、変わりつつある体験の質、より大切な人間関係を築く力を見つめ直し、人と人との出会いから生まれる相互に学び会うこと、認め合うということの大切さを改めて受け止め、これからの視聴覚教育・放送教育を考えていくべく議論が行われました。

開会に引き続いて、映画監督の山田洋次氏が「映画という集団創作」を演題に記念講演を行いました。この中で、吉永小百合さんが女優を志すきっかけとなったものは、学校の校庭で映画「二十四の瞳」を観たことであったと紹介し、不十分な設備であろうと本物は観る者に如何に大きな影響を与えるものかを語られるとともに、また映画は多くの人たちがその制作に関わり、そのような人々の交わりの中で創られていくのだと語られました。

シンポジウムは地デジの教育活用に関するパネル討議として、「2011年　テレビ放送のデジタル化で授業はどう変わるか」を主題として全体研究が行われました。地上デジタル放送によって、見るテレビから使うテレビへと変化し、学校現場においてはこの活用によっての効果が紹介されました。その一方で、メディアとして良いものを教育に利用するためには、今後とも改善すべきものは何かを常に考えていかねばならないことも指摘されました。

２日目は団体別の研究会が行われ、視聴覚教育においては、午前は「ネットワーク社会の進展をふまえた『教育の情報化』と視聴覚教育－改正『教育基本法』をふまえて－」をテーマにパネルディスカッションが行われました。新たに「生涯学習の理念」が加えられた改正「教育基本法」を生かし、望ましい視聴覚教育のあるべき姿についての議論がなされました。

午後の分科会においては、「視聴覚教育施設におけるメディアサービス事業」と「地域活性化とメディアボランティア活動」の２分科会をもたれました。前者では視聴覚教育推進体制の充実といつでも利用できる地域コンテンツの提供を図っている宮城県の例と、学校教育へのサポートを中心とした視聴覚センターの研修事業に取り組む埼玉県の例が紹介されました。後者では利用にスタンスをおいた、秋田県と山形県のICTボランティア、メディアボランティア等の活動事例が報告されました。

平成19年度（第38回）いしかわビデオ作品コンクール

16年度に「いしかわビデオ作品コンクール」と名称・内容を改め、企画を一新してスタートしましたが、 今年度は、応募期間平成19年12月３日(月)～平成20年２月８日(金)とし、昨年同様①学校教育・社会教育部門、②生徒・学生・一般部門の２部門で募集した。

なお、コンクールは石川県教育委員会の共催とし、また、石川県小・中学校視聴覚協議会、石川県高等学校視聴覚教育研究会、石川県社会教育協会、石川県公民館連合会の後援を得て行なった。

応募は、①学校教育・社会教育部門13点、②生徒・学生・一般部門28点の計41作品の応募があった。なお、審査は２月19日(火)県立生涯学習センターで行った。

審査委員

審査委員長	棒田　邦夫	金沢学院大学教授
委　　員	勝田　敏夫	メディアアドバイザー
〃	木村　康弘	県教委・生涯学習課
〃	上田　政憲	県立生涯学習センター館長

審査結果

①学校教育・社会教育部門		
最優秀賞（石川県教育委員会賞）	ふるさとの味　かぶら寿し	(金沢市)城南公民館
優秀賞（石川県社会教育協会賞）	飲み物にちゅういして元気に夏休み	(金沢市)今井由美子
奨励賞	元気のもとは眠りから!!	小松市立国府中学校
〃	一つの書き込みから～考えてみようメディアリテラシー～	石川県立医王養護学校高等部
〃	どうする太郎～気持ちのよい言葉づかいをしよう～	金沢市立金石町小学校放送委員会
②生徒・学生・一般部門		
最優秀賞（石川県教育委員会賞）	渋いを甘く	(金沢市)小林　陽治
優秀賞（石川県公民館連合会賞）	石仏の寺　如来寺	(金沢市)小倉　健治
奨励賞	どうして聞かないの	(金沢市)的場　孝芳
〃	兼六園・いま甦る名木	(金沢市)森本　重雄
〃	朱色に染まる里	(金沢市)高島誉志夫

審査講評

審査項目は、企画構成、撮影技術、編集技術、録音技術の４点に、社会性・教材性(①部門)、美術性・表現性(②部門)を加えた５点で審査を行った。

どの作品も、映像が上手に撮られており、昨年見られたブレもほとんどなかった。アップにしてもロングにしても対象をしっかりととらえていた。

選外となった作品の中には、映像表現は優れているのだが、間の取り方、BGMやナレーションをもっと効果的に使えば、と思われる作品も見られるなど、これらの点を克服すればこれからのコンクールでの活躍が期待できると思われた。

（審査委員長　棒田　邦夫）

視聴覚ライブラリー　～県立生涯学習センターからのお知らせ～

石川県立生涯学習センター２階の生涯学習情報センターには、視聴覚ライブラリーが設置されています。ここでは、16ミリフィルムと映写機の貸出と、ビデオ教材・音楽CDの貸出・視聴を行っています。

ビデオ教材のメディアはVHS教材のみを購入し、県民の皆さんに利用いただいてきました。しかし近年は一般家庭へのDVDプレーヤーやレコーダーの普及が著しく、DVD教材の貸出のお問い合わせも多く、DVDでしか観られない作品も多くなってきました。これに加えて当ライブラリーへ寄贈等で送られてくる映像メディアは、ほとんどがDVDといって良い状況となりました。

こういった事情から、本年度よりDVD教材の貸出を始めました。VHS教材が6,000点近くと充実しているのに対して、まだ100点に満たない状況ではありますが、これからは皆様の声を聞きながら充実を図っていきたいと思っております。

夢・ロマン　“卒業後”の新しい出会いに感謝！

生涯学習センタービデオクラブ会員　**小屋忠男**

“健康”を維持しながらNHKを無事に「卒業」できた幸せ、そして今は「ビデオ仲間」との新しい出会いの喜びをかみ締めています。60歳となって一度は定年退職をした身でありながら今でもNHKでのお手伝いをしている“NHK大好き人間”です。1959年（昭和34年）入局、40年間を越える協会生活、沢山の方々との出会いがありました。

しかし“卒業”してからも『ビデオ仲間』とのつながりが出来、そのお世話の一端をする事となって『ビデオ仲間』は、私の大きな宝物となりました。これまでの仕事だけでは絶対にわかりえない新鮮な出会いは、得がたい体験となっているのです。

この「ビデオ仲間」とのお付き合いはまさしく毎日が「生涯学習」そのもので“認知症”とは無関係の世界でもあるような気がしてなりません。

「ビデオ撮影・編集」は全く個人的な趣味の世界で、創造の世界でもありますが、その「趣味」を通しての仲間との交流は、更に奥深いものがあります。「卒業」した現在でも続くこのビデオ仲間との連帯は喜びと感謝の毎日です。以前の職業は何であれ“前向き”に生きる方々との会話は最高です。

ビデオやメールを通して新たに広がったネットワークは、私の財産でもありこれからの生きる糧です。69歳ですがこの世界ではまだまだ若輩者！楽しく充実した日々が送れそう。育てていただいた方々に感謝しながらも、これからはビデオ仲間とともに新しい出逢いの喜びを求めて楽しみたいと思っています。アマチュアビデオカメラマン万歳！の幸せな心境です。

編集後記

昨年の異常な暖冬に対して、今年はドカ雪こそないものの、雪が断続的に降り続き、また暖かい冬に慣れてきた身には、今年の冬の寒さは身に凍みるものでした。

さて、昨今の視聴覚メディアや機器の発達には目を見張るものがあります。また、地上デジタル放送への全面的な移行もあと３年となってくるなど、視聴覚教育の分野では一つの変革期を迎えております。今後、この紙面を通して意欲的な活動を紹介していきたいと思っております。

（宮﨑　記）